

れない。さらに晩期中葉期には、道路状遺構などを放棄したうえ全てを埋め戻し、リセットしたかのようである。また中央窪地内で発見されたのは、晩期中葉期の最終形態であり、前述したような祭祀と葬送の場である。その後、この大規模な土木工事を営々と続けてきた土地から人は去り、晩期後葉期以降は少量の土器以外の痕跡が認められない。

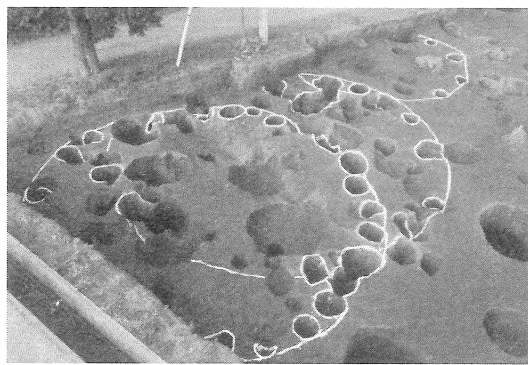
本遺跡の事例は、貝塚を伴うタイプの環状盛土遺構としては、情報量が多い遺跡といえる。これにより最近、本遺跡の検討から環状貝塚の一事例として、「盛土型環状貝塚」が提唱された（文献6）。本遺跡は、貝塚と環状盛土遺構の普遍性と特殊性を併せ持っているようである。また分布圏である大宮台地と下総台地の中間的位置に所在することも、大きな要素であろう。今後検討を加えるとすれば、類似遺跡との比較や、近隣集落との共同祭祀・共同作業の場といった視点も忘れてはならない。

<三輪野山貝塚主要文献>

- 1 小栗信一郎 1989 『三輪野山遺跡群—昭和63年度確認調査概報』 流山市教育委員会
- 2 小栗信一郎 2000 「三輪野山貝塚」『千葉県の歴史—資料編考古1（旧石器・縄文時代）』（財）千葉県史料研究財団
- 3 大内千年 2001 「流山市三輪野山貝塚・宮前・道六神・八幡前」（財）千葉県文化財センター
- 4 小川勝和・小栗信一郎 2003 「三輪野山貝塚」『月刊考古学ジャーナル11 No.509,2003』 ニュー・サイエンス社
- 5 今泉 潔 2004 「流山市三輪野山貝塚・三輪野山宮前遺跡・三輪野山八幡前遺跡」（財）千葉県文化財センター
- 6 大内千年 2004 「環状貝塚に関する一視点—流山市三輪野山貝塚の事例から—」『時空をこえた対話』慶応大学民俗学考古学研究室
- 7 小川勝和・小栗信一郎 2004 「縄文後晩期の環状盛土遺構—流山市三輪野山貝塚」『季刊考古学第88号』（株）雄山閣



3 第3貝塚と後期中葉期の遺構



4 堀之内1式期の竪穴住居跡の重複



5 中央窪地北側断面



6 中央窪地内ローム質土層土器出土状況



7 第5貝塚（斜面貝層）奥は斜面盛土



8 第5貝塚調査状況



9 第5貝塚 人骨（大腿骨）出土状況



10 斜面中位の墓坑調査状況



11 斜面盛土の調査状況（最奥は第5貝塚）



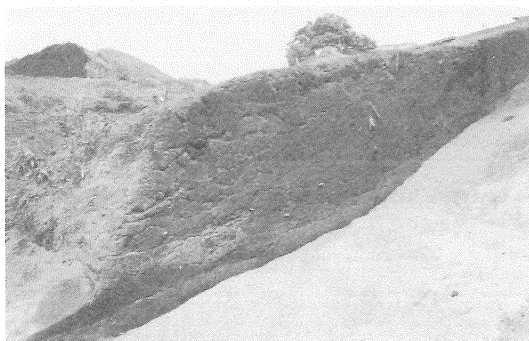
12 後期斜面盛土縦断面



13 後期斜面盛土横断面



14 後期斜面盛土遺物出土状況（後期中葉期）



15 南側後期斜面盛土（ロームがブロック状）



16 晩期斜面盛土断面及び遺物出土遺物



17 道路状遺構



18 斜面盛土下遺構検出状況